

昭和4年設立の「台所改善協会」の概要について

内田 青蔵（文化女子大学）

■明治以降の欧米文化の流入の影響を受けて、わが国の住宅は大きく変化した。とりわけ、家事労働の場であった台所の変化は著しく、また、変化の過程には住宅の改良を目的とした諸団体による活発な啓蒙活動が大きな影響を与えたことが知られている。

ところで、住宅の改良を目的として設立された諸団体の中で、台所改良だけを目的とした団体として「台所改善協会」の存在が知られている。しかしながら、この団体が具体的にどのような組織であったのかはほとんど知られてはいない。そこで、本稿では「台所改善協会」の機関誌『台所』をもとに組織と事業概要の一端を報告する。

■この「台所改善協会」の設立の時期は、発会式が行われた昭和4年4月12日といえる。この発会式では会長・副会長並びに理事と幹事が紹介されている。昭和4年9月に機関誌第1号として刊行された『台所』誌上の「会則」によれば、役員として会長・副会長・評議員・理事・監事がおり、また、会員は名誉会員・賛助会員・普通会员からなる。ちなみに、名誉会員と賛助会員は積極的に活動を援助する人々で、会費も一般会員と比べて高かった。事務所は、理事の1人である鈴木仙治の経営する台所専門設計会社鈴木商行内に設置された。事業としては、①台所の専門的研究調査②機関誌の発行③参考図書刊行④講習会の開催⑤台所改善の講師・技術者の派遣⑥台所の設計⑦台所新設備の試験・認定・推薦⑧展覧会の開催⑨その他、の多岐に亘るものが謳われていた。また、事業を實踐する組織として昭和4年9月には台所関係用品の査定を行う査定部をはじめに設計部、講演部、編集部の4つの部が設けられていた。なお、鈴木仙治はこの4つの部の委員に名を連ねていることから中心人物の一人と推察される。以上、「台所改善協会」は、鈴木仙治らを中心に、啓蒙活動から台所の実施設計まで幅広い活動を目指して組織されていたことが窺える。